

市政執行方針（要旨）

平成30年9月6日。

かつてない大きな揺れが、この北海道を激しく揺さぶりました。

私たちのまち、登別市にも、これまで経験したことのない震度5弱という大地震が襲いかかってきました。

その後、電気を一切使用できないブラックアウトが私たちを覆い、多くの市民が不安という暗闇を感じたのではないのでしょうか。

地震による直接的な被害は少なかった当市においても、停電による影響は大きく、市民生活に大きな支障をきたしましたが、地域住民の町内会をはじめとするさまざまな市民活動団体や事業所に加え、自衛隊などの公的機関、そして、人情味



▲『平成30年北海道胆振東部地震』発生後に市が開設した避難所で、炊き出しを行う市民の有志

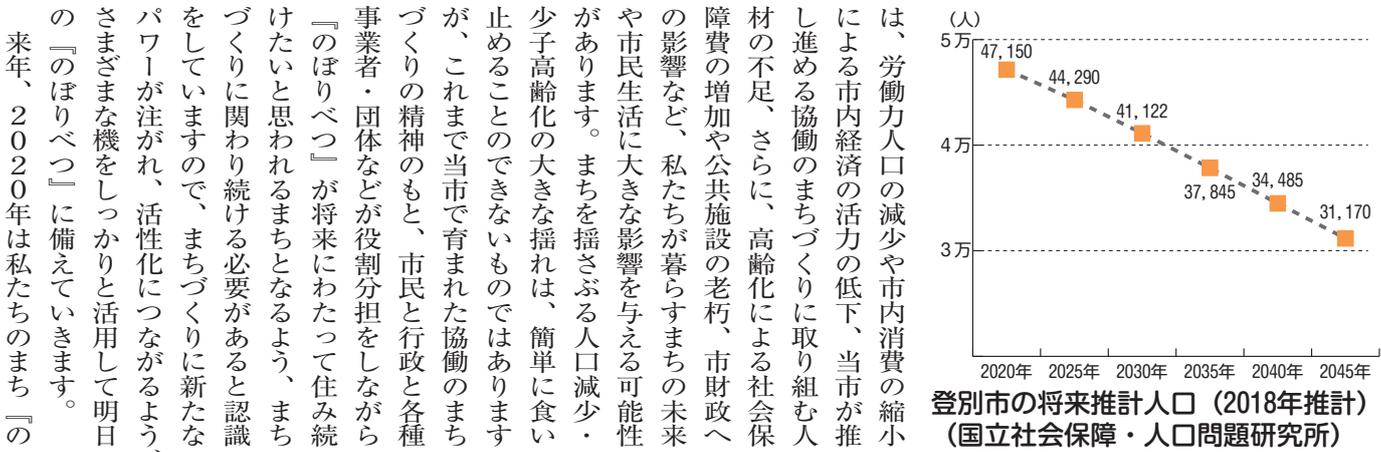
あふれる多くの登別市民のご理解とご協力のもと、大きな混乱もなく、無事乗り切ることができました。7年前の大規模停電を経験した私たちがだからこそ、その教訓を生かすことができたものとは思いますが、災害に備える市民の皆さんの不

断の取り組み、なにか事があれば力を合わせ、助け合うことができる市内団体の強い団結力と、関係機関との強固な連携が今回の素晴らしい結果を生んだものと、私は心からの尊敬と感謝の意を表するとともに、誇りに思っているところです。

今回の災害を通じ、人と人とのつながりの大切さと、絶えることのない備えの重要さを強く再認識したところであり、これからのまちづくりにおいても、さまざまな機を活用しながら市民の皆さんと防災に関する多種多様な取り組みを展開していきます。

将来にわたって『のほりべつ』が住みよいまちであり続けるためには、多くの諸課題解決への取り組みが必要です。特に、進行する人口減少・少子高齢化への対応は最も重要であり、人口減少の大きな要因は、主に出生数の減少によるものが大きく、当市においても同様の状況にあります。多岐にわたる影響として

は、労働力人口の減少や市内消費の縮小による市内経済の活力の低下、当市が推し進める協働のまちづくりに取り組む人材の不足、さらに、高齢化による社会保障費の増加や公共施設の老朽、市政への影響など、私たちが暮らすまちの未来や市民生活に大きな影響を与える可能性があります。まちを揺さぶる人口減少・少子高齢化の大きな揺れは、簡単に食い止めることのできないものがあります。これまで当市で育まれた協働のまちづくりの精神のもと、市民と行政と各種事業者・団体などが役割分担をしながら『のほりべつ』が将来にわたって住み続けたいと思われるまちとなるよう、まちづくりに関わり続ける必要があると認識をしておりますので、まちづくりに新たなパワーが注がれ、活性化につながるよう、さまざまな機をしっかりと活用して明日の『のほりべつ』に備えていきます。



は、労働力人口の減少や市内消費の縮小による市内経済の活力の低下、当市が推し進める協働のまちづくりに取り組む人材の不足、さらに、高齢化による社会保障費の増加や公共施設の老朽、市政への影響など、私たちが暮らすまちの未来や市民生活に大きな影響を与える可能性があります。まちを揺さぶる人口減少・少子高齢化の大きな揺れは、簡単に食い止めることのできないものがあります。これまで当市で育まれた協働のまちづくりの精神のもと、市民と行政と各種事業者・団体などが役割分担をしながら『のほりべつ』が将来にわたって住み続けたいと思われるまちとなるよう、まちづくりに関わり続ける必要があると認識をしておりますので、まちづくりに新たなパワーが注がれ、活性化につながるよう、さまざまな機をしっかりと活用して明日の『のほりべつ』に備えていきます。



▲協働のまちづくりに重要な情報共有の場の一つである地区懇談会（写真は2018年10月富久寿園）

『のほりべつ』が市となってから50周年を迎える大きな節目となる年であり、近隣においては白老町に民族共生象徴空間が開設され、国内においては、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される記念すべき年です。その前年となる今、私たちはこの大きな機の一つのきっかけとし、将来につながるまちづくりに取り組んでいかなければなりません。本年は、その機をしっかりと活用し、備える年として、『暮らしの安全を守り、安心を実感できるまちづくり』『災害への備え』『年齢や性別を超え、誰もが健やかに暮らし、未来が輝くまちづくり』『未来の福祉への備え』『ふるさとの資源を活用した、活力と賑わいあふれる魅力あるまちづくり』『経済活性化・外貨獲得への備え』の3つの柱を軸に、議員の皆さん、市民の皆さんの一層のご理解とご協力をいただきながら、市政に取り組んでいきます。